

# 健康への

メッセージ

シリーズ (137)

## 腹痛

光町のみなさんこんにちは。今回は腹痛のお話です。

腹痛は良くある症状です。皆さん経験しているはずですが、腹痛は経過から急性、慢性、間欠性、周期性などに分けられます。部位、程度、吐き気などの関連症状により原因を推論します。なお、大学病院の外来を受診した腹痛の患者さんでは8割が消化器疾患ですが、2割は心因精神疾患や泌尿器・整形の疾患であり、腹痛かならずしも消化器疾患ではないという結果でした。

後者の疾患として消化管出血に対する緊急内視鏡治療が挙げられます。出血性胃潰瘍や食道静脈瘤破裂に直接出血部位を観察して止血操作を行うことが可能です。緊急手術の可能性のある疾患としては、腸閉塞があります。強い腹痛が急激に起こり、腹部が硬くなり、吐き気や嘔吐が続きますので、誰でも重症感を感じる疾患です。早急に入院しての治療が必要です。治療は、まず口から排液用の管を挿入し、小腸内の適切な部位に留置します。排液する事により症状が改善される場合には、閉塞の原因の検査にあたります。手術後の腸の癒着による腸閉塞の場合にはこの排液法（ドレナージ）のみにて回復することもあります。原因が腸管の悪性腫瘍を含めた何らかの通過障害による場合には、外科的切除術が必要です。このドレナージ法でも改善しない場合には、腸管の壊死が起こる可能性があるのて緊急の開腹術が必要となります。

前者は、原因の解明のための検査や薬の投与などゆっくりとした治療が可能です。急性の胃炎から胃潰瘍、感染症を伴わない胆石症や急性膵炎などです。最近増加傾向にある過敏性腸症候群などではお薬の効果がすぐに現れずに、何回も通院が必要な場合があります。腹痛が続き、吐き気や嘔吐、下痢などのために食事がとれない場合には点滴が有効です。脱水症状が強い場合は入院治療となります。胆道感染症や細菌性胃腸炎などで治療に難渋する場合にも入院治療が必要となります。

急性の腹膜炎も緊急を要する疾患の一つです。急性虫垂炎（いわゆる盲腸）は最近では早期診断と治療によりお薬で治癒することが多くなりましたが、治療が遅れると破れて周囲の限局性の腹膜炎からお腹中に広がる汎発性腹膜炎になります。この場合には、緊急の手術が必要です。なお、腹部以外の他臓器に合併症のある患者さんが緊急開腹手術になる時には、スタッフのいる大きな病院での治療が必要な場合もあります。

### お知らせ

※相談窓口開催日 12日(木)午前9時～正午

※救急当番日 15日(日) 午前8時30分～午後5時15分

医師が2名が待機・来院の際はお電話を☎13335



東陽病院 院長 伊藤 文憲

## 県民の日映画会

### 『アイアン ジャイアント』

日 時 6月19日(日)  
午前10時・午後2時の2回  
上映  
定 員 各回120名  
入 場 整理券(無料)  
を6月4日(土)  
から図書館カ  
ウンターで配  
布します。



## 子どもと

### 本の講座

ほんの



昔から歌いつがれてきたわらべうたを親子で一緒に歌ったり、体を動かして遊びながら、楽しいひとときを過ごしませんか。

=町立図書館=  
☎3311

日 時 第1回 6月9日(木)  
第2回 6月11日(土)  
いずれも午前10時～11時  
場 所 ハイビジョンホール  
内 容 わらべうた・絵本の読み聞かせなど  
定 員 各回30組  
申 込 み カウンターまたは電話で受付します。

### 休館日

5月9日(月)、16日(月)、23日(月)、30日(月)、6月6日(月)、7日(火)